

第1回 四万十町地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

●開催日時：令和6年6月27日（木） 13時27分～14時23分

●会場：四万十町役場 西庁舎3階 防災対策室

●出席者：森武士（本協議会会長 四万十町 副町長）、牧野利恵子（社会福祉法人しまんと町社会福祉協議会 会長）、後藤欽司（高知県総合企画部交通運輸政策課 課長）
代理：島田侑哉、宮野広至（国土交通省四国運輸局高知運輸支局 総務・企画観光部門 首席運輸企画専門官）、岡村洋祐（国土交通省四国運輸局高知運輸支局 輸送・監査部門 首席運輸企画専門官）代理：梶村百花、長谷川涼（高知県窪川警察署 交通課長）、田中毅（高知県須崎土木事務所 四万十町事務所 工務課長）、久保正（四国旅客鉄道株式会社 高知企画部長）、猪野健良（株式会社四万十交通 路線事業部）、三浦ひろみ（有限会社丸三ハイヤー 専務取締役）、谷崎直子（住民または旅客）、船村覺（四万十町区長連絡会 会長）、鈴木幸代（特定非営利活動法人地域支援の会 さわやか四万十 でゆう十和組 コーディネーター）、浜崎隆（株式会社ハマヤ 代表取締役社長）、北村光司（一般社団法人四万十町観光協会 事務局長）、三本明子（高齢者支援課 課長）

■欠席委員：西内裕晶（高知県公立大学法人高知工科大学システム工学群 教授）、國元豊美（住民または旅客）、植村耕平（医療法人川村会くぼかわ病院 総括課長兼危機管理室長）、吉川耕司（四万十町国保診療所 事務長）、浜田章克（教育委員会 教育次長）、

■事務局等：川上武史、津野博、柴優樹、久保田啓嗣（四万十町役場 企画課）
北村耕助、谷岡美希（大正地域振興局）
富田努、伊藤亜衣（十和地域振興局）
土居貴之、藤田順也（合同会社えこ・まち研究室）

1. 開会あいさつ（森会長）

本日の会議では、令和6年度の四万十町地域公共交通計画に基づく具体的な取り組みを協議していただく。公共交通は皆で守り、そして利用者目線で乗りやすさを考えて行くことが重要だと考える。

委員の皆さんには忌憚のない意見をいただきたい。

委員の自己紹介

※ 事務局より、委員21名の内16名の出席により会議成立を報告。

2. 協議事項

(1) 四万十町地域公共交通計画に基づく事業推進について

事務局より、資料1「四万十町地域公共交通計画に基づく事業推進について」を説明。

【質疑応答及び意見の提示】

（島田代理委員）

- 下津井線と中津川線の実証運行は毎日運行になるのか。なお、本格運行の際の運賃はいくらの設定を考えているのか。

（事務局より回答）

⇒ 下津井線は木曜日と中津川線は火曜日の週 1 日運行している。また、運賃は他のコミュニティバスと同じ 1 乗車 100 円を想定している。

（谷崎委員）

- 下津井線はダムの通りを沿って走っている路線になるので、下津井奥までしばらく人家がない場所を走っている。バスを走らせるのも大変ではないだろうかと感じる。

（事務局より回答）

⇒ 下津井線は運行経路の長い路線で、利用者も少ない状況にあるので、令和 6 年 7 月に路線を知って、乗ってもらう取り組みを実施する予定である。

（牧野委員）

- 下津井線と中津川線は、本格運行を実施するとしたら何往復の運行を予定しているのか。

（事務局より回答）

⇒ 運行本数については、四万十交通の運転手不足の問題もあるので、今後の利用促進の取り組みを経て、利用状況などを見て運行事業者と協議して最適な運行本数にしていきたい。

補足として、今までは路線バスで 3 往復の毎日運行していたが、実証運行では週 1 日の運行になるので、運行回数を 4 往復に増やしている。

（久保委員）

- 下津井線と中津川線の運行曜日を分けている理由はあるのか。あと、バスは 1 台で、乗務員 1 名で運行しているのか。

（事務局より回答）

⇒ 下津井線を木曜日、中津川線を火曜日に設定しているのは、現在本格運行している下道線が水曜日に運行しており、曜日を分けて同じ区間を運行する利用者の利便性向上と、運行の重複を避けるためである。また、運行曜日については、本格運行までに利用者との協議を経て検討していきたい。

なお、バスは 1 台、乗務員 1 名で運行している。

（鈴木委員）

- 十和地域で移動手段確保に困っている人について情報共有したい。その人は独居高齢女性で、家族が県外におり、さわやか四万十の行っている移動サービスを利用している。この移動サービスは会員制で、遅くとも 3 日前までに予約が必要になっている。その利用者が最近ケガをして、日常生活に不安をもって生活しており、今

日や明日にも来てほしいと連絡がくるが、移動サービスの規定上難しいので、急ぎの時はタクシーを利用してもらうようお願いしている。ただ、その利用者の家の勾配がきつく、タクシーが上がってきてもらえないという話を聞いた。そういう困っている人がこれからも増えていくと考えるので、そういう人たちに対してどのようにしていくのか考えながら今取り組んでいる。

(会長より回答)

⇒ 6月の定例会の中で、十和の方で実施している会員制のたすけあいサービスについて、大正地域や窪川地域の方面にも広げたらどうかという質問もいただいているので、今後検討していく必要があるのではないかと考える。

四万十町地域公共交通計画に基づく事業推進について：全員異議なし承認

3. 報告事項

(1) 四万十町地域公共交通利便増進実施計画の進捗について

事務局より、資料 2「四万十町地域公共交通利便増進実施計画の進捗について」を説明。

意見なし

4. その他

牧野副会長より閉会あいさつ

路線バスからコミュニティバスに移行していくことは、路線バスの利用者が少なくなり、それでも公共交通として住民の移動手段確保できるよう行政が一生懸命取り組んでいることのあらわれである。

鈴木委員の発言があったように、大変な状況にある住民もいるので、四万十町としてどうしていくのか今後の大きな課題ではないかと感じている。

これからも出来る限り、地域の利便性の向上ため、委員の皆さんの発言のもとすすめていきたい。

5. 閉会 14:23